

2. 市民意向やニーズなどの現状の把握方法

現状と課題

現状は「水面上の冰山」だけしか見えない

- 現在、市の施策や事業に関し、パブリックコメントやアンケート、ワークショップ等を実施し、市民の意向や意見を把握しているが、これらにはサイレントマジョリティのものは含まれていない
- 一方、住民投票に代表される全数調査は実施に課題（制度、費用等）があることに加え、投票率が低ければ、多くのサイレント層の意向や意見を把握することができない

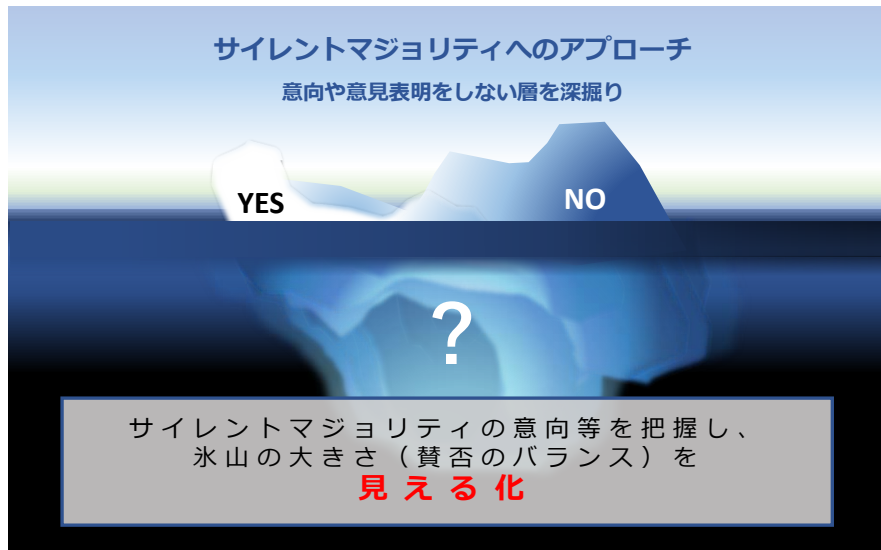
「水面下の見えない層」へのアプローチが必要

- 市民の意向・意見を把握するためには、水面下の見えない層（サイレントマジョリティ）へのアプローチが必要
- 「水面下の見えない層」をできる限り減らす仕組みを検討、実施することで、「冰山の大きさ」の見える化を目指す

全体像の把握

「冰山」は年代、地域等の属性ごとに存在している

- 市の施策や事業に関する市民の意向・意見は、世代、性別、地域等により傾向が異なる
- 「一つの冰山」を把握したことだけをもって、「冰山の全体像」を把握したことにはならない
- 市の施策や事業に市民意向を的確に反映させるために、世代、性別、地域等による差異を把握する仕組みを検討、実施することで、「冰山の全体像」の見える化を目指す



市民意向・意見を 見える化するための工夫

- ① 現状のサイレントマジョリティ層が、意向・意見表明をしやすくなる（したくなる）工夫
- ② 世代、性別、地域ごとにサンプル調査を実施するなど、属性による差異を把握することができる工夫